

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立八王子東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
事務局長（総務部主任：主任教諭）、総務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、総務部主任（指導教諭）、教務部主任（主幹教諭）、生活指導部主任（主任教諭）、進路指導部主任（主任教諭）、2学年主任（主幹教諭） 計8名
- (4) 協議委員の構成
東京都立大学教授、日野市立日野第四中学校長、八王子市立高倉小学校長、八王子教育委員会地域教育推進課長、八王子消防署小宮出張所長、PTA会長、同窓会代表、後援会代表、近隣住民代表（2名）
計10名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
 - 第1回 令和6年6月13日（木）内部委員8名、協議委員6名
協議委員委嘱、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の報告、本校の現状、今年度の各分掌の取組と課題等に関する意見・感想伺い
 - 第2回 令和6年11月14日（木）内部委員8名、協議委員6名
令和4年度の教育活動に関する報告、現状報告、本校における防災教育協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和7年2月6日（木）内部委員8名、協議委員8名
これまでの教育活動に関する報告、学校評価の報告、協議委員からの次年度学校運営に関する提言・意見等伺い
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他について
 - 第1回 令和6年6月13日（木）内部委員8名、協議委員6名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和6年11月14日（木）内部委員8名、協議委員6名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和7年2月6日（木）内部委員8名、協議委員8名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施方法
Forms（Microsoft社のフォーム作成サービス）
- (3) アンケート調査の実施時期・対象・規模

12月	全校生徒	対象：941人	回収：852人	回収率：90.7%
12月	保護者全員	対象：941人	回収：359人	回収率：36.1%
12月	地域住民	対象：144人	回収：12人	回収率：8.3%
12月	教職員	対象：61人	回収：33人	回収率：54.1%

 - ※4年前より紙ではなく電子回答に切り替えている。
 - ※保護者についても昨年度より回収率が上昇した。
 - ※地域住民の回収率の低下傾向が続き、今年度は一桁台となった。
 - ※教職員の回収率も昨年度からさらに低下した。
- (4) 主な評価項目
 - 授業に関する取り組み
 - 学校のホームページ・X（旧Twitter）・募集対策等の広報
 - 地域連携の取り組み
 - 生活指導の方針の明示
 - 知的好奇心を刺激する取り組み

学校行事の楽しさ・充実度
生徒のマナーに関する取り組み
いじめや体罰・暴言をなくすための取り組み
部活動の満足度
オンライン活用への取り組み

(5) 評価結果の概要

- ・全体に対する満足度(1)は、生徒・保護者・教員共に非常に高い。
- ・授業に対する取り組み(2)や、探究活動に対する項目(4)の評価が生徒・保護者・教員共に非常に高い。
- ・図書館の活用(9)は教員・生徒・保護者、三者ともに評価が低く、特に保護者は54%が「分からない」と回答している。
- ・GE-NET20に対する項目(10)において教員と生徒・保護者の間で評価の差がある。
ただ、同項目において生徒・保護者の「分からない」の回答が共に30%を超えている。
- ・学年情報や進路指導情報の提供に関して(12)教員は「役に立っている」と考える率は55%だが、生徒・保護者は75%以上の割合が「役に立っている」と感じている。
- ・生活指導の方針(14)が、生徒・保護者・教員にあまり伝わっておらず、特に教員の理解が低い。
- ・部活動(15)・学校行事(16)への満足度は生徒・保護者とも非常に高い。教員が感じているよりさらに高い。
- ・道徳教育(19)に対する肯定評価が教員は33%と低いのにに対し、生徒・保護者はともに80%を超えている。
- ・生徒指導(21)の項目「学校いじめや体罰・暴言をなくすために、積極的に取り組んでいると生徒は感じている」に対し、教員の肯定的な回答は48%と少ないが、生徒の実感は肯定的な意見が72%（生徒指導(20)の項目より）と高い。
- ・学校ホームページやX(旧 Twitter)の活用に関して(24)生徒の肯定的な回答は47%と低い。
- ・教員の働き方改革(28)が進んでいると感じている教員は18%と全項目の中で最も低い。
- ・保護者からの回答は25項目中6項目において「分からない」の割合が30%を超えている。
- ・生徒・保護者の集計結果において昨年度と比較した際、評価の増減が10%を超えているものは感染症対策(26)とオンライン対策(27)の2項目のみである。
- ・教員の集計結果において、28項目中15項目で肯定的な評価が10%以上減少している。
※ 感染症対策に対する項目(26)を含む。
- ・地域・近隣からの回収率が低く、内容も15項目中5項目において「分からない」の割合が30%を超えている。
- ・47期保護者の1年次の回答と比較すると、学力向上(3)と情報提供(12)の項目において肯定的意見が10%以上増加している。
- ・47期の1年次の回答と比較すると、生徒・保護者共にICT活用(7)と理数教育(8)の項目で肯定的意見が10%以上減少している。
- ・47期生徒の1年次の回答と比較すると、27項目中9項目において肯定的な意見が10%以上減少している。

(6) 評価結果の分析・考察

- ・本校全体に対する全般的な評価は、引き続き高いレベルを保っていることは、本校の教育が全体として評価されているとことの証と考えられる。
- ・探究活動に対しても肯定的な評価を引き続き得ているのは、本校の探究活動が年々厚みをまして、他校と比しても充実していることを示していると考えられる。
- ・ICTを利用した学習指導については、生徒、保護者、教員とも肯定的評価であるのに対して、学校図書館の活用については、生徒、保護者で肯定的な評価が低くなっている原因は分析する必要がある。
- ・本校の取り組むキャリア教育については三者とも肯定的な評価が多いのに対し、学校から伝える学年情報や進路情報が役立っているかについて教員の肯定的な評価が少なくなっている。この原因についても分析する必要がある。
- ・部活動の充実については教員の肯定的評価が生徒、保護者より低くなっているのに対し、学校行事については三者とも肯定的評価を得ている。
- ・登下校時などの公共マナーについては、教員の肯定的評価が特に低く、生徒、保護者との違いが際立っているのが特徴である。
- ・いじめや体罰、暴言などをなくすための取り組みを積極的に行うことについては保護者の肯定的評価が低い一方、生徒がそれらを感じているということについて教員の肯定的評価が低くなっている。学校はこれら

の取り組みを継続的に行っているが、生徒や保護者に伝わるためにはどうすればよいのかを考える必要がある。

- ・募集対策について、ホームページやXでの広報活動について、生徒の肯定的評価が低くなっている。中学生及びその保護者に本校の特徴、良さを伝えるためにはどのようなやり方をすれば良いか、考えていく必要がある。
- ・教員の働き方改革を進める取り組みについて、教員の肯定的評価は20%を下回っている。この数値を高めていくことが、本校の教育力の向上に直接つながっていくと考えられる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- ・今年度のアンケートでも多くの自由意見をいただいた。中には十分周知されていないことによる認識の違いも含まれている。また保護者自身から、アンケートに回答してみて学校について知らないことが多くあることに気づいたというご意見もあった。情報の共有や丁寧な説明を心がける必要がある。今後も保護者とともに学校を作っていくという意識を大切にしていきたい。
- ・生徒の回答の中に「分からない」の比率の高いものがあると、学校運営協議会でご指摘があった。校内にあって何らかの評価を出せるはずのところで「分からない」という答えが集中するとすれば、問い方や生徒の当事者意識の問題など、今後考えていかなければならない課題である。
- ・本校生徒が近隣の小学生の交通事故を防いだという話や地域の子どもたちに貢献している生徒の様子などを評議員の方々から伺ったり、PTA から見た本校のよさを発信する話を伺ったりすることで、多くの方々に見守られ関心を寄せていただいていることを改めて実感できた。
- ・広報の参考となるアイデアやアンケートの集計方法についても貴重なご意見をいただいた。今後活かしてゆきたい。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・生徒や保護者に対して、丁寧な説明を心がけて理解を得るとともに、広報活動や公開授業、成果発表会等を通して、地域の人々からも関心を持たれ、理解されるように努める。

（2）学習指導

- ・探究的な学習、海外交流や国際理解、理数教育の推進・一層の充実を図るとともに、生徒の状況を踏まえた授業改善に取り組み、学力向上に努める。

（3）特別活動

- ・生徒の規範意識・ルール意識の向上を図るとともに、生徒による自主的運営の質の確保と向上に努める。また、周囲に目を向け当事者意識をもって取り組む姿勢を促す。

（4）生活指導

- ・生徒の規範意識の向上とSNS関係の利用、自転車通学、学校近隣での登下校でのマナーの向上、盗難への危機管理意識を高め、地域から指示される学校を目指す。

（5）進路指導

- ・進学指導重点校として、最難関国公立大学への受験者・現役合格者を増やすために、今後も第1グループ（最難関国公立大学）受験層を伸ばすとともに、第2グループ（難関国公立大学）受験層を伸ばす指導を工夫する。また学力の格差の改善を図る。

（6）健康・安全

- ・保健の授業やセーフティ教室により、健康と安全に関わる教育の充実を図るとともに、避難訓練等を工夫し、災害時に臨機応変に対応できる判断力と行動力を育てる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（1）協議委員人数 10人

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2	1			1	2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果 【実績】なし 【成果】なし

8 その他

- ・保護者の学校評価アンケートの自由意見の記述が増えたものの、誤解による記述もあり、生徒・保護者・地域住民すべてにおいて情報の共有・周知を含め検討の必要がある。
- ・何よりも地域があっても学校という観点から、地域の方のアンケート回答率を高めていく必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、地域の小中学校との連携を進める等、地域との関係性を重視した取り組みを推進していく。